

○働きすぎを考える

労働ビックバン:ホワイトカラー・エグゼンプション : 残業ただ働き制度

労働時間規制の適用除外:2007年導入を断念

グローバル化、情報通信技術の変化、消費社会化の進展

アメリカ発の新しい働きすぎへ:市場個人主義に立脚

過労死110番:過労死の社会問題化

政府の「年間1800労働時間計画」 2005年に達成 サービス残業を含まず 短時間労働者の増大

30代での労働時間 有給休暇の取得率の低さ

日本的働きすぎの特徴

- 1)「男は仕事、女は家庭」+「男は残業、女はパート」の性別分業
- 2)長時間残業とサービス残業
- 3)残業に対する労働組合の規制力の弱さ:三六協定、違法残業
- 4)過労死・過労自殺の存在 月100時間、あるいは月80時間を越えると過労死・過労自殺へ  
電通の「鬼十訓」の5番目:「取り組んだら放すな、殺されても放すな、目的完遂までは  
死ぬまで働く、死ぬほど働く → 日本の正社員の働き方の基準  
「休みたいなら、やめればいい」日本電産社長

アメリカ発の新しい働きすぎ

- 1)グローバル資本主義:多国籍企業 国内雇用不安定 賃金の引き下げと労働時間延長
- 2)情報資本主義:仕事の時間と個人の時間の境界をあいまいに 仕事がどこまでも追いかける  
熟練を不要にし、非正規雇用置き換え
- 3)消費資本主義:消費を追い求める 長時間深夜走るトラックとパート・アルバイトの細切れ労働者
- 4)フリーター資本主義: 労働市場の流動性
- 5)株主資本主義: 株価至上主義 M&A(企業合併・吸収)・リストラ

ホワイトカラー・エグゼンプションの導入論

新自由主義的市場個人主義:国家による労働時間の規制は好ましくなく、

働き方は労働市場における個人の自由な選択にゆだねるべき

ホワイトカラー:労働時間規制に適用除外 成果主義賃金 時間で算定が困難 管理監督者

過労死 自己管理の問題 : 人材派遣会社社長

ホワイトカラー・エグゼンプションを導入したアメリカの結果

残業代は支払われない

働かされすぎの果てに、使い捨てられる ホワイトカラー労働者を大量に作り出した

○今週の元気な企業と人:寿精密(和歌山県かつらぎ町)

○今週のビデオ:「悲鳴を上げる“名ばかり管理職”」NHKクローズアップ現代2007年11月19日放送

---

質問・意見等は、高田の E-mail: ystakada@komazawa-u.ac.jp まで。

講義レジュメ、講義スライドの掲載ホームページ: <http://homepage1.nifty.com/ytakada/komadai/kougi/>